

2024年度 第1四半期 決算説明会資料

長瀬産業株式会社（証券コード:8012）
2024年8月8日

これからも、
じぶんらしく。
じぶんらしくなく。

©イリヤ・クブシノフ Ilya Kuvshinov

（代表取締役専務執行役員 池本眞也によるプレゼンテーション）

おはようございます。長瀬産業、代表取締役専務執行役員の池本でございます。
ただ今より、2024年度第1四半期の決算説明をさせていただきます。

再掲:資本コストや株価を意識した経営 —2023年度期末 決算説明会資料より—

企業価値向上に向けた方針

中期経営計画 ACE 2.0で掲げる成長戦略、財務・資本戦略の遂行

現状の課題認識

- 2007年度以降**PBRは1倍割れ**の状態
- 株主資本コストは投資家との対話から**8.0%以上**
- 純資産に対する政策保有株式の割合が約15%

取組み事項

収益性・効率性

- ROIC経営の浸透:売上総利益率および資本回転率の向上
- 改善領域における不採算事業・不採算取引を削減
- 政策保有株式の段階的な削減

資本コスト

- 株主還元拡充:2年間限定で総還元性向100%
- 成長投資における負債の活用

IR活動

- 積極的な情報開示、投資家との対話を拡充

まず、最初でございますが、すでに前期の決算説明会のときに説明させていただいておりますが、PBRの向上に向けて、当社がどういうスタンスでいるかを再度ご説明資料を掲示させていただきます。

PBRの向上を目指すということは、ROEの向上と株主資本コストの低減に注力して、常にROEと株主資本コストの差、つまり、エクイティスプレッドの拡大を目指すことにほかならないと考えております。

よって、そのために資本コストの低減をすること、そして企業を成長させること、ROICの向上で稼ぐ力を高めること、こういった経営戦略を実現することで、企業価値を高める。そういうことを心して、経営を進めています。最初にその点、確認と説明をさせていただきます。

目次

■ 連結損益計算書	P3
■ 所在地別 売上総利益	P4
■ 業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P5
■ 業態・セグメント別営業利益 2期比較	P6
■ 売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移	P7
■ セグメント概況	P8～P15
■ 主要製造子会社概況	P16
■ 連結貸借対照表	P17
■ 連結キャッシュ・フロー計算書	P18
■ 2024年度 通期業績見通し(変更無し)	P19～P20
■ 株主還元状況	P21
■ お知らせ:名古屋支店移転	P22

<参考情報>

- ✓売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移ーその他・全社配賦前ー
- ✓再掲:各セグメントの事業環境ー2023年度期末 決算説明会資料よりー

連結損益計算書

- ▶ 第1四半期としての売上総利益は過去最高となり、全事業セグメントにおいて売上総利益率が向上
- ▶ 物流コスト上昇を受けた販売費や人件費等の一般管理費が増加したが、営業利益は増益となり、営業利益率も向上
- ▶ Prinovaグループの製造業は厳しい状況だったが、連結全体としては通期見通しに対して順調に進捗

	2023年度 第1四半期	2024年度 第1四半期	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率
売上高	2,240	2,392	151	107%	9,400	25%
売上総利益	387	457	70	118%	1,800	25%
<利益率>	17.3%	19.1%	1.9ppt	—	19.1%	—
販売費及び 一般管理費	317	350	33	110%	1,435	—
営業利益	69	107	37	154%	365	29%
<利益率>	3.1%	4.5%	1.4ppt	—	3.9%	—
経常利益	73	109	36	149%	352	31%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	43	74	30	170%	280	26%
US\$レート (期中平均)	@ 137.5	@ 155.9	@ 18.4 円安		@ 148.0	
RMBレート (期中平均)	@ 19.6	@ 21.5	@ 1.9 円安		@ 20.0	

※ 収益認識基準 代理人取引による売上高および売上原価の相殺額 2023年度 第1Q —635億円 2024年度 第1Q —668億円
 ※ 為替の影響 【売上総利益】+26億円 【営業利益】+6億円

第1四半期の結果でございます。

第1四半期としては、売上総利益過去最高、全事業セグメントで売上総利益が向上しております。売上総利益、営業利益ともに過去最高水準に達しているわけですが、売上総利益率としても、全事業セグメントで向上し、全体として19.1%と、1.9ポイント向上しております。

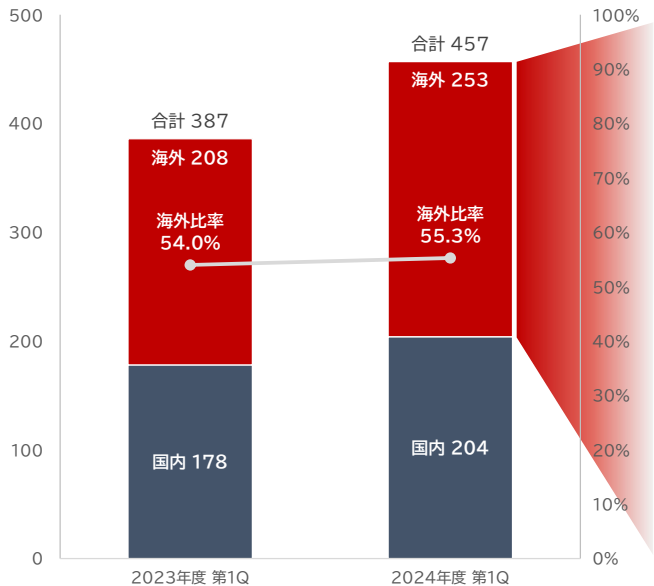
営業利益の通期見通し365億円に対しましても、29%という進捗率。大変好調なスタート、グッドスタートと言えるかというふうに見ております。この中には、当初見通しに含まれております、未執行の経費もまだ入っておりますので、事業の今後の推移に応じて、そういった執行がされていくものも入っております。そして、こういった事業の好調に加えて、前期赤字でございましたカラーフォーマー事業の、赤字の削減が進んでおります。具体的には、売上総利益と営業利益の両方でSOFIXと福井山田化学の事業で約5億円、第1Qで改善しております。特にSOFIXに関しましては、すでに事業を停止しておりますので、このまま今期、その効果が継続するとお考えください。

販売費と一般管理費につきましては、33億円増となっております。これは事業拡大によるものも含まれますが、特に人件費で、Prinovaグループで約7億円増、全体で9億円増、そして、減価償却費は、主に基幹システムの入替えにより増加するもので、その約5億円増もその中に含まれております。これらの結果、費用が増えている部分もございますが、当社の事業が堅調に推移していることを示しており、今後業績を継続的に成長させていくためにも、進めていきたいと考えております。

所在地別 売上総利益

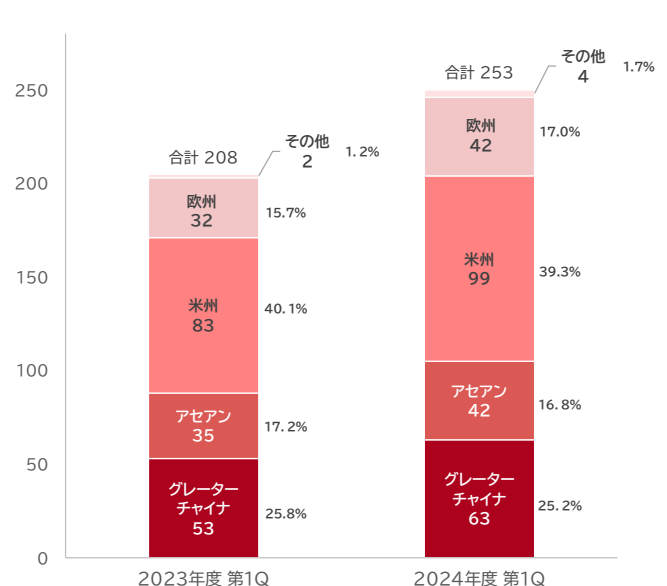
- ▶ 国内外ともに増益
- ▶ 国内は主に半導体用途向けの変性エポキシ樹脂関連や原材料の販売増加等により増益
- ▶ 海外は円安による影響に加えて、食品素材販売や樹脂販売の収益性が改善したこと等により増益

国内・海外売上総利益（億円）



※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含む

海外売上総利益の地域別内訳（億円）



所在地別の売上総利益でございます。

国内外ともに増益でございます。海外比率も54%から55.3%、1.3ポイント上昇しております。為替の影響もありますが、ご覧いただけますように、全地域で増益を達成しております。

具体的には米州で16億円、欧州では10億円の増益があります。これはPrinovaグループの事業である食品素材販売が好調だったことが牽引しております。また、グレートチャイナ、中国、台湾でございますが、半導体関連材料の販売と樹脂販売、こういったものを主に伸ばしております。

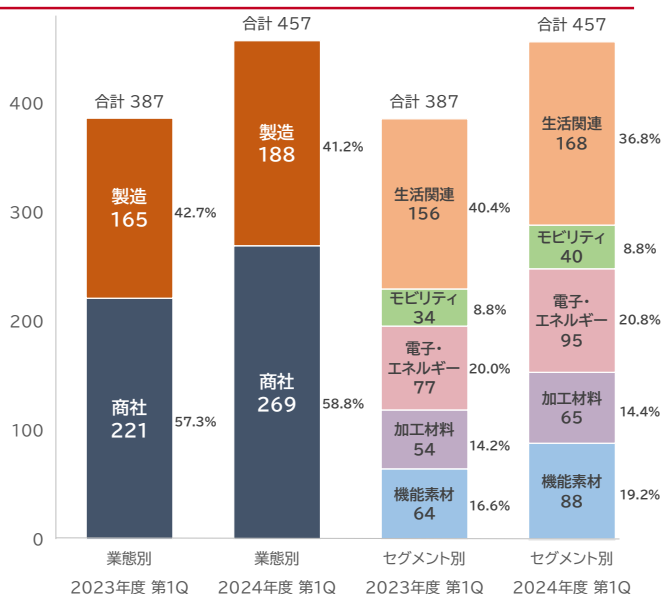
半導体は好調で、樹脂販売も一昨年、昨年と全世界的な需要の減少がございましたが、その段階からすでに回復をしてきており、今後、引き続き伸び、足元でも販売が改善している次第でございます。

これらの結果は、当社のグローバル展開と各地域での事業の強さを反映していると考えておりまして、今後も引き続き成長していきたいと思っております。

業態・セグメント別売上総利益 2期比較

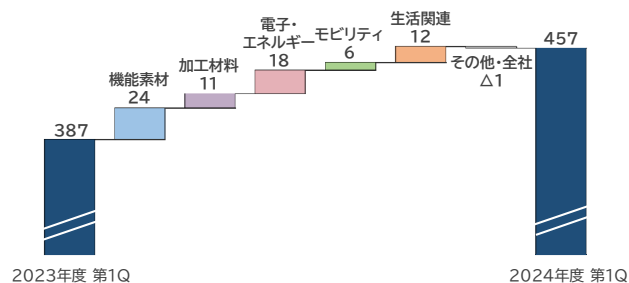
- ▶ 機能素材は塗料原料や半導体関連等の電子業界向け原料の販売増加に加え、情報印刷関連材料の製造業であるカラーフォーマー事業における損失削減により、増益
- ▶ 加工材料はOA等の電機・電子業界等向け樹脂販売の世界的な需要の持ち直しに加え、足元で市況が底入れ基調であることを受け、増益
- ▶ 電子・エネルギーは半導体業界向けの材料販売や変性エポキシ樹脂関連の半導体・モバイル機器向けの販売増加により、増益
- ▶ 生活関連は主にPrinovaグループの食品素材販売の好調により、増益

業態・セグメント別 売上総利益 (億円)

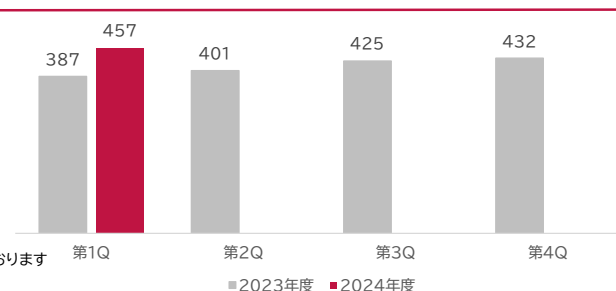


※ 商社の数値はその他・全社、連結調整を含む ※2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております
 ※ セグメント別構成比の計算には、その他・全社、連結調整を含まず

セグメント別 売上総利益 増減 (億円)



売上総利益 四半期推移 (億円)



業態・セグメント別の売上総利益でございます。

業態別の売上総利益では、製造業と商社業いずれも増益となっております。セグメント別でも、全セグメントで増益を達成しております。

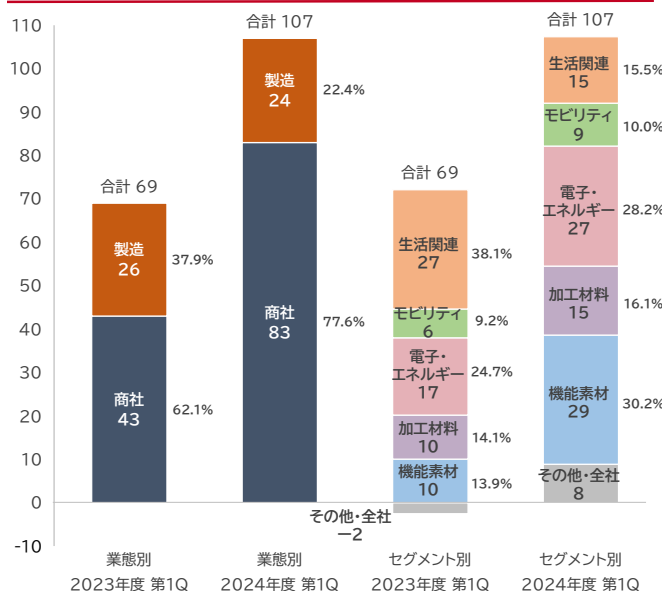
特に事業の好調に加えまして、先ほど申し上げましたカラーフォーマー事業の損失の削減、こういったものの影響が大きかったと見ております。機能素材やナガセケムテックスの半導体後工程材料の自社製品、半導体事業や電子デバイス向けの材料販売、こういったものが好調であり牽引しております。これにより、電子・エネルギーセグメントが増益となっております。

これらの結果は、当社の持つ多様な事業展開と、戦略的な損失削減が功を奏していることを示していると考えております。

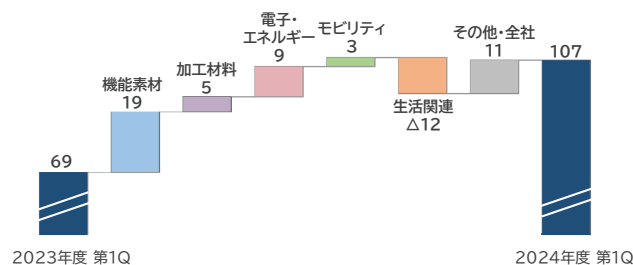
業態・セグメント別営業利益 2期比較

- ▶ 製造業の営業利益はナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂関連の販売好調やカラーフォーマー事業の損失削減等があったものの、Prinovaグループの減益による影響等により、全体として減益
- ▶ その他・全社は主に数理計算上の差異の償却益の影響で増益

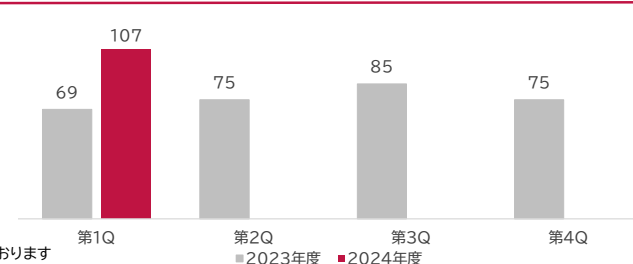
業態・セグメント別 営業利益 (億円)



セグメント別 営業利益 増減 (億円)



営業利益 四半期推移 (億円)



※ 商社の数値はその他・全社、連結調整を含む ※2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております
 ※ セグメント別構成比の計算には、その他・全社、連結調整を含まず

業態・セグメント別の営業利益の比較でございます。

営業利益になりますと、若干差が出ております。今期より、従来はその他・全社に計上されていた大きな費用を、各事業セグメントに共通経費として配布する金額を拡大いたしました。

業態別の営業利益では、製造業が減益となり、商社業が増益となっております。製造業に関しまして、ナガセケムテックスの好調と、先ほどのカラーフォーマーの損失削減、これが大きく寄与しております。先ほど言いましたように、具体的には、SOFIXと福井山田化学で5億円の改善をしております。一方で、Prinovaグループで約6.9億円の減益、ナガセヴィータで3億円の減益がございました。その結果、製造業全体としては減益となっております。商社業に関しましては、塗料原料、半導体関連材料、樹脂販売などが全体的に増益となっております。

セグメント別では、売上総利益の増益幅が大きい機能素材と、電子・エネルギーの営業利益の増大貢献が大きくなっております。一方で、生活関連は先ほど申し上げましたように、営業利益段階で12億円の減益となっており、これはPrinovaグループとナガセヴィータの減益の影響によるものでございます。

売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移

▶ 2023年度下期からの好調を継続

							(億円)
四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	当期見通し 前期実績
売上高	当期	2,392				2,392	9,400
	前期	2,240	2,261	2,275	2,224	2,240	9,001
	増減率	6.8%				6.8%	4.4%
売上総利益	当期	457				457	1,800
	前期	387	401	425	432	387	1,647
	増減率	18.3%				18.3%	9.3%
<利益率>	当期	19.1%				19.1%	19.1%
	前期	17.3%	17.8%	18.7%	19.4%	17.3%	18.3%
製造	当期	188				188	
	前期	165	160	183	185	165	695
商社	当期	269				269	
	前期	221	241	242	246	221	952
営業利益	当期	107				107	365
	前期	69	75	85	75	69	306
	増減率	54.3%				54.3%	19.2%
<利益率>	当期	4.5%				4.5%	3.9%
	前期	3.1%	3.3%	3.8%	3.4%	3.1%	3.4%
製造	当期	24				24	
	前期	26	17	25	21	26	91
商社	当期	83				83	
	前期	43	58	59	54	43	214

※商社として区分した各利益は連結調整による影響を含みますが、2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております

これは、四半期ごとの売上高・売上総利益・営業利益の推移でございます。

ご覧いただきましてお分かりいただけますように、昨年の第4Qより上方に推移していることがご理解いただけたと思います。

セグメント概況

- ▶ 塗料原料の販売は主に自動車業界向けが好調に推移したことにより増加
- ▶ 半導体関連等の電子業界向けの原料販売が増加
- ▶ 情報印刷関連材料の製造業であるカラーフォーマー事業は米国での生産を停止し、製造拠点を日本に集約したことにより損失削減
- ▶ 営業利益は顧客の在庫調整による全般的な販売不調に加え、カラーフォーマー事業の損失があった前年同期と比べて増益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	(億円)	【注力施策】
売上高	当期	405				405	当期見通し	機能化学品事業部
	前期	364	357	375	370	364	前期実績	
	増減率	11.4%				11.4%		
売上総利益	当期	88				88		▶ グローバルな調達力を活かした石化産業や市場の変化を捉えたビジネス機会の獲得
	前期	64	68	73	75	64		
	増減率	37.8%				37.8%		
<利益率>	当期	21.8%				21.8%		▶ サステナブルな素材やソリューションの提案 (生分解性バイオSAP、化学品共同物流マッチング等)
	前期	17.6%	19.1%	19.5%	20.4%	17.6%		
製造	当期	6				6		スペシャリティケミカル事業部
	前期	1	1	2	3	1		
商社	当期	82				82		▶ 市場成長が見込める半導体業界向けケミカル ビジネスの拡大
	前期	62	66	71	71	62		
営業利益	当期	29				29		▶ フロー合成、MOF※等、ユニークな技術を活用した 事業創出
	前期	10	14	19	17	10		
	増減率	197.2%				197.2%		
<利益率>	当期	7.3%				7.3%		※ Metal Organic Frameworks (金属有機構造体)
	前期	2.7%	4.1%	5.1%	4.8%	2.7%		
製造	当期	2				2		
	前期	-3	-2	-2	-1	-3		
商社	当期	27				27		
	前期	13	17	21	19	13		

それでは次、セグメント別の概況でございます。

当期より、セグメント概況のページに、こちらにもございますが、注力施策を記載させていただいております。少しフォーマットが変わっておりますが、ご参照ください。

機能素材セグメントでございます。

売上総利益は昨年の第1四半期64億円から、今年88億円となり、24億円の増益を達成しています。営業利益も19億円の増益を記録しております。このセグメントは、連結全体の売上総利益および営業利益、この両方の増益を最も牽引しているセグメントでございます。

商社部門では、自動車業界のサプライチェーンが在庫調整の影響もありまして、前年におきましては芳しくなかったものが、前年度下期から回復しており、その傾向は継続しております。また、半導体関連も徐々に回復しておりまして、本格的には来年年明けを見込んでおりますが、足元ではすでに原料販売が好調に推移し始めております。

製造部門の大きなものはカラーフォーマー事業の損失削減でございます。生産体制の見直しを実施しながら損失の削減をしておりますが、これは次のページで説明させていただきます。全体として好調ですが、実は商社部門の利益の中に特殊な一過性の利益が含まれており、これは、第2四半期以降はなくなりますので、利益水準は若干下がる見込みでございます。

トピックス:改善領域の取組み

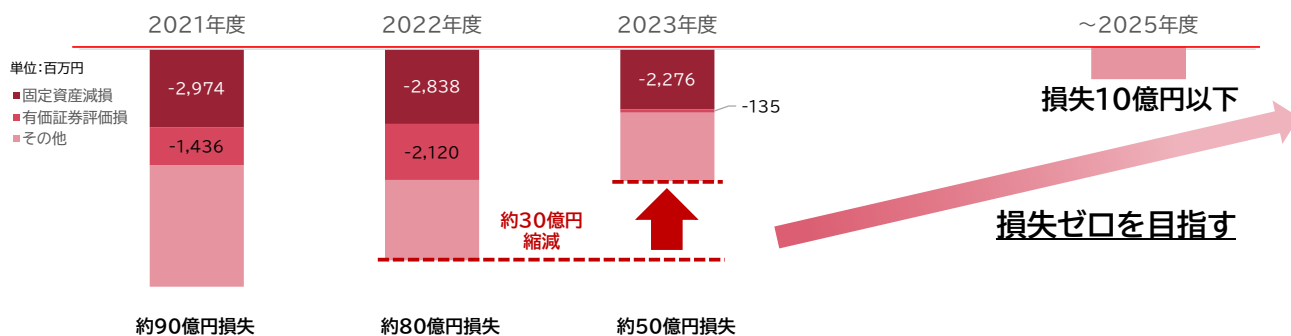
- ▶ 昨年度、カラーフォーマー製造子会社SOFIXにおける生産を停止
- ▶ 米国におけるカラーフォーマー事業からの撤退を決定

SOFIX LLCについて

- ▶ 米国、テネシー州のカラーフォーマー製造販売拠点であり、2023年度通期の営業赤字は約11億円
- ▶ 2024年度は大幅に営業損失を削減し、機能素材セグメントの売上総利益、営業利益の改善に寄与

グループ全体の取組み

【事業子会社の営業損失、持分法損失、減損損失、不採算取引の金額規模】



改善領域の取り組みでございます。

まず、グループ全体の取り組みとして、以前の決算説明会の時にご説明させていただきましたが、最終的には2025年度、損失10億円以下、さらに、ゼロを最終的に目指すという全社方針の下、各施策を講じております。

カラーフォーマーの米国生産拠点でありますSOFIX、この生産を昨年度にすでに停止しておりまして、この事業からの撤退、米国におけるカラーフォーマーの生産事業からの撤退を既に決定しております。よって、この効果が今年度、第1Q以降も継続するとお考えください。

当社はより健全な経営基盤を築き、今後の成長に向けた準備をさらに進めてまいります。

セグメント概況

- ▶ 樹脂の販売はOA等の電機・電子業界向けの需要回復を受けて増加
- ▶ 製造業は樹脂成型品の販売が増加
- ▶ 営業利益は、樹脂販売の市況底入れによる収益性の回復傾向が継続し、売上総利益が増加したことから、増益

四半期実績						(億円)
		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績
売上高	当期	535				535
	前期	485	536	477	485	485
	増減率	10.2%				10.2%
売上総利益	当期	65				65
	前期	54	61	61	57	54
	増減率	20.1%				20.1%
<利益率>	当期	12.3%				12.3%
	前期	11.3%	11.5%	13.0%	11.9%	11.3%
製造	当期	12				12
	前期	11	12	14	11	11
商社	当期	53				53
	前期	43	49	47	46	43
営業利益	当期	15				15
	前期	10	15	16	11	10
	増減率	56.3%				56.3%
<利益率>	当期	3.0%				3.0%
	前期	2.1%	2.9%	3.4%	2.3%	2.1%
製造	当期	2				2
	前期	1	2	3	0	1
商社	当期	13				13
	前期	8	13	12	10	8

【注力施策】

ポリマーグローバルアカウント事業部

- ▶ グローバルブランドオーナーの生産拠点の変遷に伴い、メキシコ・インド等の注力エリアにリソースシフト
- ▶ 環境素材(自社品・他社品)の取扱い拡大
- ▶ グローバルでの事業運営の効率化、組織体制の最適化



粉体を超高濃度ペレット化する自社技術



ASEANにおける物流拠点(比)

加工材料セグメントでございます。

主に樹脂事業でございますが、売上総利益で11億円、営業利益で5億円の増益を記録しております。

主に樹脂の大きな用途でありますOA機器、オフィス用の大きなプリンター、もしくはファクスとの複合機、こういったものを中心とした電機・電子業界向けの樹脂販売が回復しております。昨年度以前、低迷しておりました市況も足元では回復基調にあり、今後、更に収益性が改善していくとみております。

工業用ホース等を製造しております東拓工業というわれわれのグループ会社でございますが、足元含めて非常に販売も好調に推移し、収益性も上がっており、このセグメントにおける製造業の中核となっております。

セグメント概況

- ▶ 半導体業界向けの材料販売は市況の緩やかな回復を受け増加
- ▶ 電子デバイス向けの材料販売は需要の増加を受け増加
- ▶ 変性エポキシ樹脂関連はハイエンドサーバー用の半導体向け、モバイル機器向けの販売が増加
- ▶ 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	(億円)
売上高	当期	400				400	当期見通し
	前期	355	356	375	360	355	前期実績
	増減率	12.8%				12.8%	
売上総利益	当期	95				95	
	前期	77	86	85	92	77	
	増減率	23.7%				23.7%	
<利益率>	当期	23.8%				23.8%	
	前期	21.7%	24.2%	22.9%	25.8%	21.7%	
製造	当期	33				33	
	前期	27	31	33	39	27	
商社	当期	62				62	
	前期	50	54	52	53	50	
営業利益	当期	27				27	
	前期	17	24	21	25	17	
	増減率	55.5%				55.5%	
<利益率>	当期	6.9%				6.9%	
	前期	5.0%	6.9%	5.6%	6.9%	5.0%	
製造	当期	7				7	
	前期	4	8	8	11	4	
商社	当期	19				19	
	前期	12	15	12	13	12	

【注力施策】

エレクトロニクス事業部

- ▶ 半導体市場における商材の拡充
 - ・国内生産の拡大を踏まえた事業創出
 - ・欧米やインド等での事業拡大
- ▶ 最先端電子デバイス向けビジネス開発

先進機能材料事業部

- ▶ ナガセケムテックスの製品を最先端半導体向けに販売拡大
- ▶ 次世代半導体の業界標準となるような新しい技術の提案実施
- ▶ 環境×半導体×技術の提案を更に拡充



PacTech Asiaの半導体ウェハバンピング新ライン

電子・エネルギーセグメントでございます。

半導体業界向け、電子デバイス向け、いずれも好調でございます。市場の回復もさらに進んでおりまして、先ほど言いましたように、半導体は年明け後、さらに回復すると想定しています。売上総利益に関しましても、18億円の増益を実現しております。営業利益でも9億円の増益で、機能素材セグメントに続く、大きく増益したセグメントとなっております。

商社部門におきましては、半導体材料や電子デバイス向けの材料販売が増加しております。中国の半導体国産化の影響もあり、日本からの輸出が若干落ちているものもあるのですが、中国半導体業界向けの材料販売、これは現地ビジネス含めて、まだまだ好調に推移しております。

製造部門では、ナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂は当社の製品として半導体業界で大変な好評をいただいております。デファクトスタンダードになるような製品も含めまして、成長しているところでございます。次ページで、もう少し詳しく説明させていただきます。

トピックス：半導体関連の動き

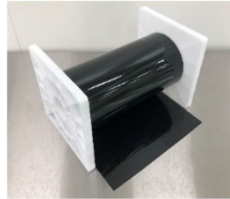
- ▶ ハイエンドサーバー向け最先端半導体事業を拡大
- ▶ 次世代のデファクトスタンダードを目指して新コンセプト材料(a-SMC:Advanced Sheet Molding Compound)の顧客への提案を推進するとともに、既存のLMC(Liquid Molding Compound)についても旺盛な需要の高まりを見込み、ナガセケムテックスの生産設備の増強を決定
- ▶ 国内の半導体工場向けの現像液・回収再生事業の始動に向けた供給体制を整備

ナガセケムテックスのLMC※製造ライン増設

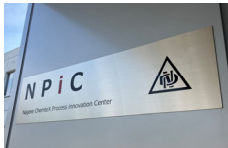
- ▶ 播磨工場にラインを増設
 - ・生成AIをはじめとしたハイエンドサーバー向け事業における、足元の需要の高まりを見込み、生産体制の拡張を決定
 - ・既存工場のライン増設によって生産能力を倍増、下期から本格稼働予定
 - ・今後も市場の要求に応じて、機動的に設備増強予定



LMC



a-SMC



ナガセケムテックスのプロセス・イノベーション・センター

SN Techの現像液・回収再生事業

- ▶ 半導体製造における環境対応要求へのソリューション
 - ・TMAH(Tetramethyl Ammonium Hydroxide)、水の再利用に加え、産業廃棄物の処理費用の大幅削減を実現
- ▶ MOBIUS SYSTEM® CHEMICAL RECYCLING
 - ・製造工程で回収したTMAHのリサイクル利用を可能にする革新的な技術
 - ・SN TechのJVパートナーであるSACHEM社(米国の化学企業、1950年設立、非上場)が専門的な化学知識と技術で開発
- ▶ 7月に顧客工場へ大型装置の搬入を完了
 - ・半導体工場からTMAHを回収するための大型装置の搬入が完了、2025年以降に始動を見込む



半導体関連の動きとして、ナガセケムテックスのLMC製造ラインの増設と、SN Tech社の現像液・回収再生事業について紹介させていただきます。

ナガセケムテックスの半導体向けの変性エポキシ樹脂、これも先ほど申し上げましたように好調でございます。マーケットの需要、それも新しい用途の立ち上がり、これがわれわれが想定しました以上のものがあり、今後も旺盛な需要を見込んでおります。

そのため、このLMC製造ラインの増設を予定しております。新しい生産ラインの稼働は、2025年下期を見込んでおりますが、写真の中にございますようなLMCの生産ライン倍増、現状の倍のキャパを確保する見込みで、さらに市場の状況を見まして、倍以上の増設も視野に入れているところでございます。

もう一つの、現像液・回収再生事業でございますが、われわれのパートナー企業でありますアメリカのSACHEM社、こちらとの合併会社でありますSN Tech社、日本にある会社でございますが、このSN Tech社の事業として再生事業を進めております。

すでにこの技術の中核となりますMOBIUS SYSTEMといいます装置、これは私どもの取引先の工場内に設置をしております、量産とともに回収事業をスタートし、環境問題、またコスト削減に寄与できるものと考えております。2025年以降に稼働を見込んでおりますので、来年以降またご報告をさせていただきます。

セグメント概況

- ▶ 樹脂の販売は、中国における日系販売先の生産台数減少による影響があったものの、世界的な自動車生産台数の増加により、増加
- ▶ 内外装・電動化用途の機能素材・機能部品の販売が増加
- ▶ 営業利益は売上総利益の増加を受け、増益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	(億円) 当期見通し 前期実績
売上高	当期	321				321	1,387
	前期	311	337	353	319	311	1,321
	増減率	3.1%				3.1%	5.0%
売上総利益	当期	40				40	160
	前期	34	39	41	37	34	152
	増減率	17.8%				17.8%	5.0%
<利益率>	当期	12.5%				12.5%	11.5%
	前期	11.0%	11.8%	11.7%	11.6%	11.0%	11.5%
製造	当期	—				—	—
	前期	—	—	—	—	—	—
商社	当期	40				40	152
	前期	34	39	41	37	34	152
営業利益	当期	9				9	32
	前期	6	10	11	7	6	36
	増減率	49.7%				49.7%	△ 11.5%
<利益率>	当期	3.1%				3.1%	2.3%
	前期	2.1%	3.1%	3.3%	2.3%	2.1%	2.7%
製造	当期	—				—	—
	前期	—	—	—	—	—	—
商社	当期	9				9	36
	前期	6	10	11	7	6	36

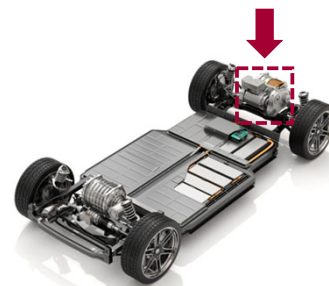
【注力施策】

モビリティソリューションズ事業部

- ▶ 電動化関連素材・部品の取扱いを一層拡充
- ▶ 北米・インドなどの成長市場へのリソース投下促進



車載インバーター用金属インサート成型部品



モビリティセグメントでございます。

自動車業界向けに樹脂、部品、その他材料を販売しております。自動車の生産台数が全般的に落ちておりましたが、全世界的に回復途上にあると見ております。

特に、米国での回復を含めまして、全般的に樹脂および部品の販売は伸びております。ただ、中国の日系自動車メーカー様の生産台数の減少、タイでは一部、市場のシュリンクがございまして苦戦する部分もございますが、全体的に数字を伸ばしている、売上も利益も伸ばしている、そういう状況になっております。

材料以外の部分では、特にEV、電気自動車でございますが、ハイブリッド自動車も同様の範疇でございますけども、そちら向けの電機・電子関連の部品、素材、こちらも順調に伸びておりまして、今後、こういった樹脂材料および部品、EV、ガソリン車、こういったところでの展開をさらに加速してまいります。

セグメント概況

- ▶ Prinovaグループは食品素材市況が下落していた前年同期と比べて収益性が回復し、販売も増加
- ▶ ナガセヴィータは化粧品素材の販売が国内向けは増加したが、海外向けは顧客の在庫調整の影響等もあり減少
- ▶ 中間体・医薬品原料の販売が増加
- ▶ 営業利益は売上総利益が増加したものの、主にPrinovaグループの人件費等の一般管理費の増加等もあり、減益

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	第1四半期 累計実績	(億円) 当期見通し 前期実績
売上高	当期	728				728	2,897
	前期	723	673	693	687	723	2,777
	増減率	0.7%				0.7%	4.3%
売上総利益	当期	168				168	710
	前期	156	145	163	168	156	634
	増減率	8.0%				8.0%	11.9%
<利益率>	当期	23.2%				23.2%	24.5%
	前期	21.6%	21.6%	23.6%	24.5%	21.6%	22.8%
製造	当期	136				136	505
	前期	125	114	133	131	125	
商社	当期	32				32	129
	前期	30	30	30	37	30	
営業利益	当期	15				15	94
	前期	27	13	19	20	27	80
	増減率	△ 44.5%				△ 44.5%	17.4%
<利益率>	当期	2.1%				2.1%	3.2%
	前期	3.8%	1.9%	2.8%	3.0%	3.8%	2.9%
製造	当期	11				11	60
	前期	23	9	15	12	23	
商社	当期	4				4	19
	前期	4	3	3	8	4	

※商社として区分した各利益は連結調整による影響を含みますが、2023年度の連結調整の一部を製造に組換えております

【注力施策】

ライフ＆ヘルスケア製品事業部

- ▶ 自社製品の拡販に国内外で注力
- ▶ 海外グループ基盤・拠点間の連携強化によるクロスセルの拡充
- ▶ バイオ素材の拡充
(NVI※1、NBIC※2のバイオ由来素材の創出
例：発酵技術で量産化を目指すエルゴチオネイン)
- ▶ Prinovaグループの製造の拡大
※1 ナガセヴィータ
※2 ナガセバイオイノベーションセンター



エルゴチオネインに期待される効果

生活関連セグメントでございます。

こちら先ほど申し上げましたように、Prinovaグループおよびナガセヴィータの不調がございますが、全般的に売上総利益としては12億円の増益をしております。ただ、営業利益に関しましては、先ほどのPrinovaグループ、ナガセヴィータの影響もありまして、12億円の減益となっております。

Prinovaグループに関しましては、後ほど詳しく説明をさせていただきます。

ナガセヴィータの減益に関しまして、本来、今期第1Qは化粧品関連のまさに出荷時期で、いわゆるかき入れ時という時期に当たりますが、中国の景気減速による中国内の化粧品事業の低迷が全世界的に影響しておりまして、中国を含む化粧品業界の全体の低調に繋がっています。結果、昨年の第1四半期では非常に旺盛な需要をいただきました化粧品材料のナガセヴィータからの製品の出荷が、当期の第1四半期では低調になったというところでございます。

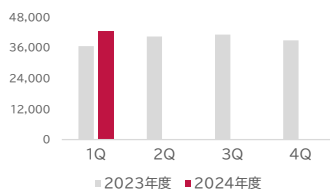
トピックス: Prinovaグループの現状

- ▶ 商社業は販売数量増加、利益率改善の傾向継続
- ▶ 製造業は生産体制の懸念は解消し効率性向上も進捗しているが、2024年度後半以降の利益回復を見込む

商社業

- ▶ 販売数量はシェア拡大が続いており増加傾向
- ▶ 中国食品素材メーカーの供給過多による急激な市況下落の影響を受けた2023年度と比較し、売上総利益率は改善傾向
- ▶ 中国食品素材メーカーの生産調整の動きも見られることからより一層、市況の改善が進む見込み
- ▶ スエズ運河閉鎖等による物流混乱、物流に要する日数増加、コンテナ不足等の状況はリスクでもあるが、Prinovaグループの機能による安定調達に対する期待が高まっている状況

販売数量の推移(商社業)



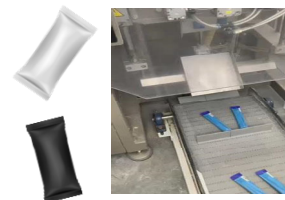
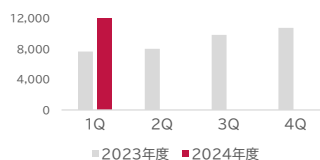
Ingredient distribution



製造業

- ▶ ユタ工場
 - ・ 遅れていた製造工程の自動化は、当初想定レベルまで完了
 - ・ 一方、スポーツニュートリション業界全体は伸びているが顧客毎の状況には濃淡あり
 - ・ 市場において高いシェアが取れる製品の受託パイプラインは獲得しているものの、2024年度後半から2025年度にかけて開始するものが多数
- ▶ テネシー工場
 - ・ 市場ニーズが高まっている個包装の製品であるスティックパック製造の自動化を推進、労務費が今後低減する見込み
 - ・ 需要拡大による販売増加と自動化を通じた原価低減を通じて2024下期以降、利益貢献していく見込み

販売数量(製造業)



Prinovaグループの現状でございます。

先ほどからご説明申し上げておりますように、全体としては、われわれの想定レベルには至っておりませんが、製造業と商社業を大きく二つに分けて説明をさせていただきます。

商社業に関しましては、販売数量拡大が続いております。商社部門の食品素材の販売としては非常に好調でございます。販売数量は引き続き年々増えておりまして、シェアを獲得しております。一昨年、昨年、これもこの1～2年の間、中国の食品素材メーカーが国内不況を背景に、製造を絞らず、供給過多の状態が続いておりましたので、それが全世界に出荷、販売され、価格の低下を引き起こしておりました。

2023年と比較して、当第1四半期におきましては、若干改善傾向にはございますが、引き続き低いレベルでこの四半期は推移したところでございます。ただし、売上数量を伸ばしておりますし、シェアも伸びております。

そして、今申し上げました市況価格の低迷につきましても、そろそろ底落ちたという観測が出ており、一部素材ではすでに値上がりをはじめているものもございます。供給を絞る動きも中国内では見られており、今後、市況価格が戻れば、われわれすでに数量シェアはとっておりますので、収益に貢献するものと思っております。現状、足元で見ましても、すでに想定レベルは超える勢いで今戻っておりますので、今後、さらに期待できる部分かと思っております。

物流関連の混乱、スエズ運河と書いておりますが、スエズ運河は通行不能となっております。パナマ運河は、水位の低下による通行規制があり、こういったことで、物流の混乱が起きておりまして、北米およびヨーロッパでリードタイムが長引いたり、コストが上がったり、コンテナが戻ってこなかったり、そういう状況が起こっておりますが、Prinovaグループ、NAGASEグループのロジスティクス機能およびその販売力、この辺りにお客様から大いなる期待が寄せられています。そういう状況で、さらにこの商社業である食品素材販売を伸ばしていけるものと考えております。

(次ページにつづく)

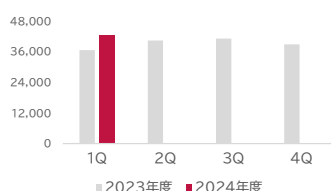
トピックス: Prinovaグループの現状

- ▶ 商社業は販売数量増加、利益率改善の傾向継続
- ▶ 製造業は生産体制の懸念は解消し効率性向上も進捗しているが、2024年度後半以降の利益回復を見込む

商社業

- ▶ 販売数量はシェア拡大が続いており増加傾向
- ▶ 中国食品素材メーカーの供給過多による急激な市況下落の影響を受けた2023年度と比較し、売上総利益率は改善傾向
- ▶ 中国食品素材メーカーの生産調整の動きも見られることからより一層、市況の改善が進む見込み
- ▶ スエズ運河閉鎖等による物流混乱、物流に要する日数増加、コンテナ不足等の状況はリスクでもあるが、Prinovaグループの機能による安定調達に対する期待が高まっている状況

販売数量の推移(商社業)



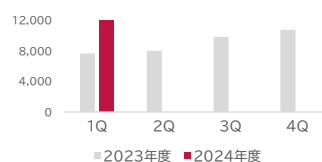
Ingredient distribution



製造業

- ▶ ユタ工場
 - ・ 遅れていた製造工程の自動化は、当初想定レベルまで完了
 - ・ 一方、スポーツニュートリション業界全体は伸びているが顧客毎の状況には濃淡あり
 - ・ 市場において高いシェアが取れる製品の受託パイプラインは獲得しているものの、2024年度後半から2025年度にかけて開始するものが多数
- ▶ テネシー工場
 - ・ 市場ニーズが高まっている個包装の製品であるスティックパック製造の自動化を推進、労務費が今後低減する見込み
 - ・ 需要拡大による販売増加と自動化を通じた原価低減を通じて2024下期以降、利益貢献していく見込み

販売数量(製造業)



製造業に関しまして、大きく分けて3カ所、製造拠点がございます。一つは、シカゴの本社近郊にある工場、それとテネシー工場、そしてユタ工場です。テネシー工場とユタ工場は、スポーツニュートリションに特化しておりますが、シカゴはバルクのブレンドを担っております。

すでに昨年から打っている施策が功を奏しておりまして、シカゴの工場は改善し、収益体制を取り戻しております。テネシー工場も今年に入り、当初、苦戦しましたが、写真にちらっと出ております、小さい小袋のようなもの、こういった小袋サイズのいわゆる個包装のニーズが高まっています。市場ニーズが高まっておりまして、この自動化ラインを持つPrinovaグループのテネシー工場の収益も今回復し、下期に向けてまして大きな改善を、今期待し進めているところでございます。

一方、ユタ工場に関しましては、相変わらず苦戦しております。当初われわれが想定しておりましたお客様の状況が変わってきておりまして、いわゆる多品種小ロット生産、これが自動化ラインの中で生産コストを押し上げ、そして、また人件費を余分に取っている状態が続いております。

今、お客様のカスタマーミックス、それとグレードミックス、製品ミックス、こういったものを大きく見直しておりまして、商品の入れ替え、ビジネスの入れ替えを進めております。これが進めば、自動化ラインにマッチしたビジネスを獲得し、収益体制を整えることができると考えております。下期もまだ苦戦する予想は立てておりますが、来年度に向けて、この施策を進めていきたいと考えております。

主要製造子会社概況

- ▶ナガセケムテックス:主にハイエンドサーバー用途向けの変性エポキシ樹脂関連の販売好調により、営業利益は増益
- ▶ナガセヴィータ:国内食品、香粧品素材の販売は好調も、海外向けの香粧品素材の販売が在庫調整の影響等で減少したことにより、営業利益は減益
- ▶Prinovaグループ:食品素材販売における販売数量増加および利益率向上により売上総利益は増益となったが、一般管理費の増加及び足元の製造業の不調により、営業利益は減益

		(億円)						
		2023年度 第1四半期	2024年度 第1四半期	増減額	前年同期比	通期見通し	進捗率	
ナガセケムテックス	売上高	57	66	8	115%	261	25%	
	売上総利益	17	20	3	120%	80	26%	
	<利益率>	30.2%	31.6%	1.4ppt	-	30.7%	-	
	営業利益	5	7	2	144%	26	28%	
	<利益率>	9.2%	11.5%	2.3ppt	-	10.3%	-	
ナガセヴィータ	売上高	89	86	△3	97%	369	23%	
	売上総利益	34	33	△1	96%	140	24%	
	<利益率>	38.4%	38.2%	△0.2ppt	-	37.9%	-	
	営業利益	16	13	△3	80%	57	23%	
	<利益率>	18.4%	15.3%	△3.1ppt	-	15.4%	-	
	のれん等償却費	7	7	-	100%	29	26%	
※Prinovaグループ	償却費負担後営業利益	8	5	△3	63%	27	20%	
	売上高	516	504	△11	98%	2,091	24%	
	売上総利益	87	99	12	114%	421	24%	
	<利益率>	16.9%	19.7%	2.8ppt	-	20.2%	-	
	営業利益	19	13	△6	68%	81	17%	
	<利益率>	3.8%	2.7%	△1.1ppt	-	3.9%	-	
	のれん等償却費	6	6	0	112%	27	25%	
	償却費負担後営業利益	13	6	△6	49%	54	12%	

※2023年度の業績について、のれん等の償却費以外の連結修正による損益影響を含めておりませんが、適切な業績開示の観点から含めた計数に変更しております

今まで申し上げました3つの主要製造グループ会社の状況でございます。
内容は先ほどご説明したとおりでございます。ご覧ください。

連結貸借対照表

▶ 運転資本は業績好調に加え、円安影響もあり増加
(US\$換算レート:2024年3月末 151.4円 2024年6月末 161.1円)
(RMB換算レート:2024年3月末 20.8円 2024年6月末 22.0円)

	2024年3月末	2024年6月末	増減額	主な増減
流動資産	5,424	5,718	293	
（現金及び預金）	594	583	△10	
（売掛債権）	3,211	3,333	122	
（棚卸資産）	1,479	1,595	116	
固定資産	2,498	2,583	85	
（投資有価証券）	762	790	28	
資産の部合計	7,923	8,302	379	
流動負債	3,026	3,184	157	短期借入金・CP+98、賞与引当金△34
（買掛債務）	1,563	1,660	96	
固定負債	883	969	86	長期借入金+74
負債の部合計	3,910	4,154	244	
株主資本	3,128	3,123	△5	
その他の包括利益累計額	812	946	133	為替換算調整勘定+124
非支配株主持分	72	78	6	
純資産の部合計	4,013	4,148	134	
運転資本	3,127	3,269	141	
自己資本比率	49.7%	49.0%	△0.7ppt	
有利子負債	1,669	1,827	158	
NET D/Eレシオ	0.27	0.31	0.03	

連結貸借対照表でございます。

業績の好調に加えて、円安の影響もございますが、運転資本が増加しております。売掛債権、棚卸資産、この辺り業績が伸びるとともに増える状況になっておりますが、特に棚卸資産に関しましては、在庫の回転率を高めながら、基本的なラインとしては、回転月数の縮減を今進め、また、それを果たしております。今後、こういったものをさらに進めまして、より収益性の高い状態を作っていきたいと考えています。

連結キャッシュ・フロー計算書

▶業績好調により四半期純利益利益は増加したが、運転資本も増加した影響等により営業CFは30億円の支出

	(億円)	
	2023年度 第1四半期	2024年度 第1四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	158	△30
（税引等調整前四半期純利益）	64	107
（有形・無形資産償却費）	39	44
（運転資本の増減）	153	△45
（その他）	△97	△137
投資活動によるキャッシュ・フロー	△40	△82
（固定資産投資）	△40	△41
（その他）	0	△40
フリーキャッシュ・フロー	118	△112
財務活動によるキャッシュ・フロー	△136	33
（自己株式取得による支出）	△32	△33
（配当金の支払い額）	△46	△45
（借入金・社債の増減）	△55	115
（その他）	△1	△2
換算差額	33	40
現金及び現金同等物の増減額	16	△38

連結キャッシュ・フローでございます。

こちらと同じでございますが、業績好調により四半期純利益が増加する一方、運転資本の増加などの影響で営業キャッシュ・フローは30億円ほどの支出となっております。今後、フリーキャッシュ・フローも含めまして、適切な資金運用を行い、健全な成長を持続させていきます。

2024年度 通期業績見通し(変更なし)

- ▶ 半導体関連、フード関連事業における製造業の収益拡大を見込む
- ▶ 商社業における樹脂販売は復調し、自動車関連事業も堅調を見込む
- ▶ 販売費及び一般管理費は数理差異の償却による退職給付費用の減少はあるが、事業の拡大もあり、全体として増加見込み
(退職給付の数理差異: 2023年度 約9億円の費用、2024年度 約35億円の収益)

	(億円)			
	2023年度 実績	2024年度 見通し	増減額	前期比
売上高	9,001	9,400	398	104%
売上総利益	1,647	1,800	152	109%
<利益率>	18.3%	19.1%	0.8ppt	—
販売費及び 一般管理費	1,341	1,435	93	107%
営業利益	306	365	58	119%
<利益率>	3.4%	3.9%	0.5ppt	—
経常利益	305	352	46	115%
親会社株主に帰属 する当期純利益	224	280	55	125%
US\$レート (期中平均)	@ 144.6	@ 148.0	@ 3.4	円安
RMBレート (期中平均)	@ 20.1	@ 20.0	@ 0.1	円高

通期の見通しでございます。

第1四半期ということもありまして、見直しは行っておりません。

まずは、第1四半期のこの勢いを継続すべく、第2四半期に取組み、さらに下期に向けて頑張ってみまいります。

2024年度 セグメント別業績見通し(変更なし)

- ▶機能素材は主に自動車関連向けの販売増加と、カラーフォーマー事業における損失の減少により、増収増益
- ▶加工材料は主にOA等の電機・電子業界向けの樹脂販売の増加により、増収増益
- ▶電子・エネルギーは主にナガセケムテックスのハイエンドサーバー用の半導体向けの変性エポキシ樹脂関連の販売増加により増収、売上総利益も増益を見込むが、全社共通経費の配賦額の増加等により、営業利益は減益
- ▶モビリティは世界的な生産台数の増加を受けた樹脂、機能素材・機能部品の販売増加により増収、売上総利益も増益を見込むが、全社共通経費の配賦額の増加等により、営業利益は減益
- ▶生活関連は主にPrinovaグループの食品素材の市況底打ちによる収益性回復とナガセヴィータの食品、化粧品素材の販売増加により、増収増益

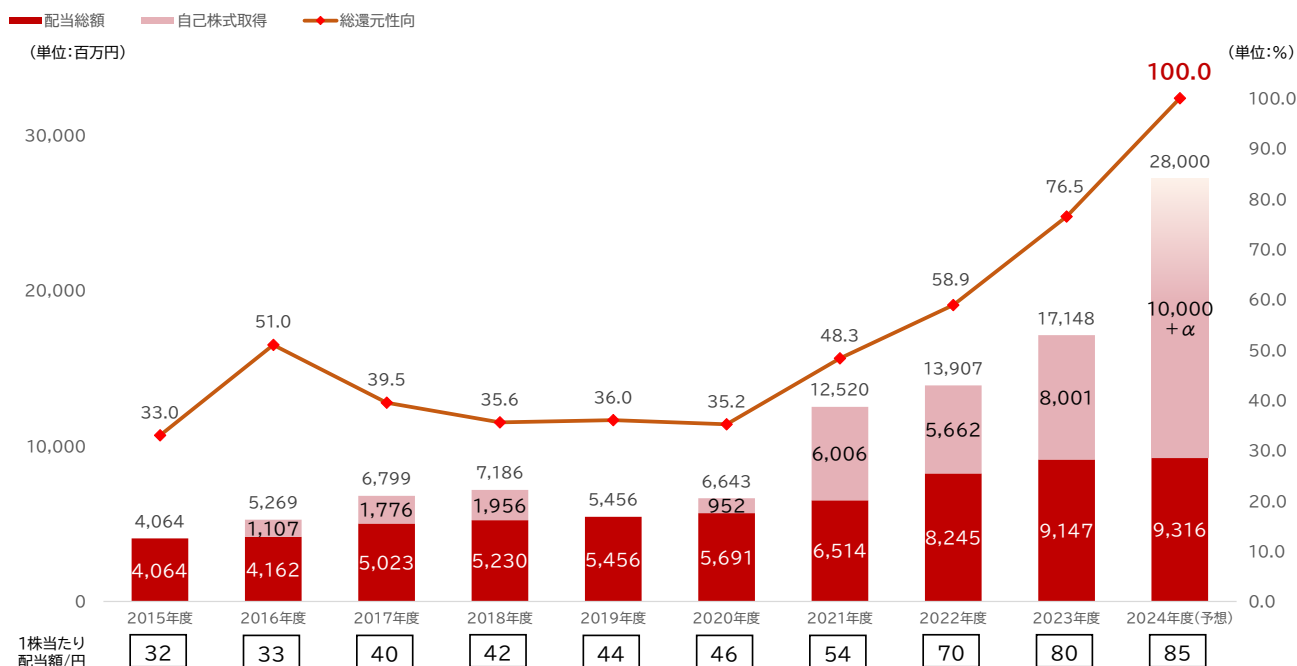
		(億円)		
		2023年度 実績	2024年度 見通し	増減額
機能素材	売上高	1,468	1,550	81
	売上総利益	281	306	24
	<利益率>	19.2%	19.7%	0.6ppt
	営業利益	61	68	6
	<利益率>	4.2%	4.4%	0.2ppt
加工材料	売上高	1,985	2,072	86
	売上総利益	236	248	11
	<利益率>	11.9%	12.0%	0.1ppt
	営業利益	53	55	1
	<利益率>	2.7%	2.7%	△0.0ppt
電子・エネルギー	売上高	1,447	1,493	45
	売上総利益	342	377	34
	<利益率>	23.6%	25.3%	1.6ppt
	営業利益	88	86	△2
	<利益率>	6.1%	5.8%	△0.4ppt
モビリティ	売上高	1,321	1,387	65
	売上総利益	152	160	7
	<利益率>	11.5%	11.5%	0.0ppt
	営業利益	36	32	△4
	<利益率>	2.7%	2.3%	△0.4ppt
生活関連	売上高	2,777	2,897	119
	売上総利益	634	710	75
	<利益率>	22.8%	24.5%	1.7ppt
	営業利益	80	94	13
	<利益率>	2.9%	3.2%	0.4ppt
その他・全社	売上高	1	1	△0
	売上総利益	0	－1	△1
	営業利益	－13	30	43
連結合計	売上高	9,001	9,400	398
	売上総利益	1,647	1,800	152
	<利益率>	18.3%	19.1%	0.8ppt
	営業利益	306	365	58
	<利益率>	3.4%	3.9%	0.5ppt

セグメント別の業績見通しです。

こちらも変更ございません。

株主還元状況

- ▶ 2024年度の1株当たり配当金は中間40円、期末45円の年間85円を予定(15期連続増配見通し)
- ▶ 2024年5月に**ACE 2.0**期間における還元方針を変更し、2024年度、2025年度の**総還元性向を100%**とした(継続増配の方針は変更無し)
- ▶ 上記方針に基づき2024年5月に決議した100億円の自己株式取得は、予定通り進捗し6月末時点での取得累計額は33億円
(取得期間:2024年5月~10月予定)※11月以降の追加還元は別途決議



※ 2024年度の期末配当金は、2025年6月開催予定の第110回定時株主総会に附議予定です。

株主還元でございますが、これも方針は変えておりません。

総還元性向100%を目指しており、変更なしとさせていただいております。

お知らせ:名古屋支店移転

- ▶名古屋支店を移転し、2024年7月16日より営業開始
- ▶新オフィスでは東京本社に続き、ABW(アクティビティ・ベースド・ワークプレイス)を導入し、多様で創造的な働き方を実現できる環境を整備

新名古屋オフィスについて

旧名古屋支店

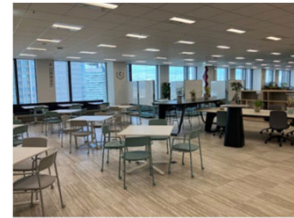


旧名古屋支店住所
〒460-8540 愛知県名古屋市中区丸の内
三丁目14番18号

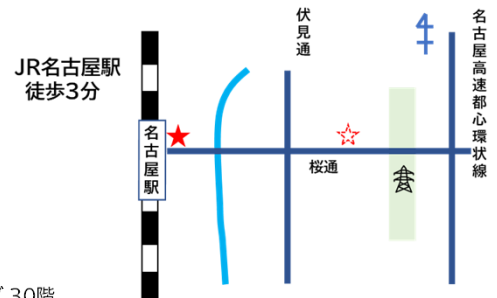
<テナントビル>
大名古屋ビルヂング



移転先住所
〒450-6430 愛知県名古屋市中村区
名駅三丁目28番12号 大名古屋ビルヂング 30階



新オフィス内装



最後に、お知らせが2点ございます。

われわれの拠点、東京、大阪、名古屋とございますが、名古屋支店、こちら今、名古屋の中心街、丸の内という場所でございますが、そちらから名古屋駅前のテナントビルに移ります。

今まで一つのビルの中で階が分かれたところで仕事をしておりましたが、今回は、この大名古屋ビルヂングという大きなビルで、ワンフロアにグループ会社を含めて、皆一緒に仕事をするスペースを確保いたしました。皆さん、もし名古屋に行かれることがありましたら、お立ち寄りいただければありがたく存じます。

ご参加・ご来場をお待ちしております！
2024年10月12日(土)・13日(日)
第3回NAGASEカップ @国立競技場 入場無料



△ NAGASE | Delivering next.

Copyright © 2024 Nagase & Co., Ltd.

そして、最後でございますが、NAGASEカップ、今年第3回目になりますが、10月12日と13日、この2日間、国立競技場で開催させていただきます。

パラアスリートの方々に参加いただき、また、健常者のアスリートの方、小学生にも参加いただき、昨年大変好評でした。数千人の来客をいただきましたが、今年も引き続き開催させていただきます。10月の12日、13日、入場無料でございますので、国立競技場のご見学も含めて、おいでいただければ大変ありがたく存じます。

以上、第1四半期の決算の内容についてご説明を差し上げました。
ご清聴ありがとうございました。



■お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

■当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

当プレゼンテーション資料には、2024年8月5日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移ーその他・全社配賦前ー

- ▶ 2024年度よりその他・全社のうち、長瀬産業単体の一部を除く全社共通経費を各事業部に配賦する運用を開始
- ▶ 全社共通経費を配賦し、各事業部の収益性をより実態に近い形で把握できる体制へと変更
- ▶ 本ページでは参考情報としてその他・全社配賦前の四半期推移を記載

										(億円)																								
四半期実績					第1四半期					当期見直し					四半期実績					第1四半期					当期見直し									
					1Q					2Q					3Q					4Q					累計実績					前期実績				
連結合計																																		
売上高	当期	2,392					2,392		9,400	売上高	当期	535					535		2,072	売上高	当期	321					321		1,387					
	前期	2,240	2,261	2,275	2,224		2,240		9,001		前期	485	536	477	485		485		1,985		前期	311	337	353	319		311		1,321					
	増減率	6.8%					6.8%		4.4%		増減率	10.2%					10.2%		4.4%		増減率	3.1%					3.1%		5.0%					
売上総利益	当期	457					457		1,800	売上総利益	当期	65					65		248	売上総利益	当期	40					40		160					
	前期	387	401	425	432		387		1,647		前期	54	61	61	57	54	54		236		前期	34	39	41	37	40	34		152					
	増減率	18.3%					18.3%		9.3%		増減率	20.1%					20.1%		5.0%		増減率	17.8%					17.8%		5.0%					
<利益率>	当期	19.1%					19.1%		19.1%	<利益率>	当期	12.3%					12.3%		12.0%	<利益率>	当期	12.5%					12.5%		11.5%					
	前期	17.3%	17.8%	18.7%	19.4%		17.3%		18.3%		前期	11.3%	11.5%	13.0%	11.9%	11.3%		11.9%	前期		11.0%	11.8%	11.7%	11.6%		11.0%		11.5%						
	増減率	10.7%					10.7%		36.5		増減率	8.8%					8.8%		3.4%		増減率	1.0%					1.0%		5.1%					
営業利益	当期	107					107		365	営業利益	当期	20					20		77	営業利益	当期	13					13		51					
	前期	69	75	85	75		69		306		前期	13	19	20	15	13		68	前期		9	13	14	10		9		49						
	増減率	54.3%					54.3%		19.2%		増減率	50.2%					50.2%		13.2%		増減率	44.6%					44.6%		3.9%					
<利益率>	当期	4.5%					4.5%		3.9%	<利益率>	当期	3.8%					3.8%		3.7%	<利益率>	当期	4.3%					4.3%		3.7%					
	前期	3.1%	3.3%	3.8%	3.4%		3.1%		3.4%		前期	2.8%	3.6%	4.2%	3.1%	2.8%		3.4%	前期		3.0%	4.1%	4.2%	3.4%		3.0%		3.7%						

四半期実績					第1四半期					四半期実績					第1四半期					当期見直し														
					1Q					2Q					3Q					4Q					累計実績					前期実績				
機能素材(機能化学品事業部&スペシャリティケミカル事業部)																																		
売上高	当期	405					405		1,550	売上高	当期	400					400		1,493	売上高	当期	728					728		2,897					
	前期	364	357	375	370		364		1,468		前期	355	356	375	360	355		1,447	前期		723	673	693	687		723		2,777						
	増減率	11.4%					11.4%		5.6%		増減率	12.8%					12.8%		3.1%		増減率	0.7%					0.7%		4.3%					
売上総利益	当期	88					88		306	売上総利益	当期	95					95		377	売上総利益	当期	168					168		710					
	前期	64	68	73	75		64		281		前期	77	86	85	92	77		342	前期		156	145	163	168		156		634						
	増減率	37.8%					37.8%		8.8%		増減率	23.7%					23.7%		10.1%		増減率	8.0%					8.0%		11.9%					
<利益率>	当期	21.8%					21.8%		19.7%	<利益率>	当期	23.8%					23.8%		25.3%	<利益率>	当期	23.2%					23.2%		24.5%					
	前期	17.6%	19.1%	19.5%	20.4%		17.6%		19.2%		前期	21.7%	24.2%	22.9%	25.8%	21.7%		23.6%	前期		21.6%	21.6%	23.6%	24.5%		21.6%		22.8%						
	増減率	23.8%					23.8%		10.1%		増減率	10.1%					10.1%		7.2%		増減率	1.0%					1.0%		5.1%					
営業利益	当期	37					37		105	営業利益	当期	34					34		124	営業利益	当期	21					21		125					
	前期	15	21	25	24		15		86		前期	23	31	27	31	23		113	前期		32	19	24	26		32		103						
	増減率	140.7%					140.7%		21.7%		増減率	50.6%					50.6%		9.5%		増減率	△ 34.8%					△ 34.8%		21.1%					
<利益率>	当期	9.1%					9.1%		6.8%	<利益率>	当期	8.7%					8.7%		8.3%	<利益率>	当期	2.9%					2.9%		4.3%					
	前期	4.2%	6.0%	6.7%	6.6%		4.2%		5.9%		前期	6.5%	8.7%	7.3%	8.8%	6.5%		7.8%	前期		4.5%	2.9%	3.6%	3.9%		4.5%		3.7%						

再掲:各セグメントの事業環境ー2023年度期末 決算説明会資料よりー

業界	2023年度の動向		2024年度の動向		セグメント
塗料	自動車用途は徐々に回復、建築関連用途は低迷		自動車用途は引き続き堅調だが、全体として概ね横ばい		機能素材
カラー フォーマー	需要は低調継続、市況は一層下落		供給過多の状況は継続し市況は低迷が続く		
半導体	市況の回復は遅れる中、ハイエンド向けが好調		緩やかに回復し、年後半は本格的に回復、ハイエンド向けは好調継続		電子・エネルギー
ディスプレイ	スマホを始め出荷が低迷し、年度通じて低調		前期比で需要は回復		
スマート フォン	通期を通して出荷が低迷		前期比で伸長見込み		加工材料
OA・ゲーム	世界的な需要の低迷を受け、樹脂市況も下落		全般的に需要及び樹脂市況は緩やかに回復		
自動車	中国の日系自動車関連は低調、国内は半導体不足からの回復を受け堅調		緩やかな自動車生産台数の回復が継続		モビリティ
医薬	業界全体は不調		需要は増加しているが、先発薬の特許切れ等もあり原料販売は減少		生活関連
香粧品	コロナ収束の影響により需要増加		全体として需要は回復傾向継続		
フード	米国市場の需要が減少し、市況も下落していたが需要は下期以降回復傾向		米国市場における需要の回復傾向は継続		

※一過性損失等を除く、ナガセグループの事業環境(必ずしも一般的な業界動向とは一致しない)